

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
東北文化学園 専門学校	昭和58年12月27日	野田 幹雄	〒981-8552 宮城県仙台市青葉区国見六丁目45番16号 (電話) 022-233-8163			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 東北文化学園大学	昭和53年3月17日	土屋 滋	〒981-8550 宮城県仙台市青葉区国見六丁目45番1号 (電話) 022-233-3330			
目 的	企業と連携をとり、最新の建築工法、実務、法律、技術等を身につけるために、より実践的な教育を行い、地域社会に貢献できる人材を育成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業 専門課程	建築科	2年(昼)	1,875 単位時間 (又は単位)	平成12年文部省告示第十五号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,080 単位時間 (又は単位)	855 単位時間 (又は単位)	0 単位時間 (又は単位)	60 単位時間 (又は単位)	0 単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160 人	21 人	2 人	12 人	14 人		
学期制度	■前期：4月1日から9月30日まで ■後期：10月1日から3月31日まで		成績評価	■成績表 (有) 無) ■成績評価の基準・方法について 4段階による評価を定期試験やレポート等により総合的に評価		
長期休み	■学年始め：4月1日から4月6日まで ■夏 季：8月11日から9月13日まで ■冬 季：12月25日から1月8日まで ■学 年 末：2月20日から3月31日まで		卒業・進級条件	進級は、試験等により教育課程における学年の所定授業科目を修得した者を認め、卒業は、専門課程の所定期間在学し、かつ、試験等により全課程を修了したと校長が認めた者		
生徒指導	■クラス担任制 (有) 無) ■長期欠席者への指導等の対応 出席不良通知発送、面談		課外活動	■課外活動の種類 清掃活動、献血、卒業制作展 ■サークル活動 (有) 無)		

就職等の状況	■主な就職先、業界等 住宅会社、建築設計事務所、建設会社 ■就職率^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 45.5% ■その他（任意） （平成25年度卒業者に関する平成26年5月時点の 情報）	主な資格・検定	福祉住環境コーディネーター2・3級 CAD利用技術者2級 2級建築施工管理技士（学科試験）
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 4.0 % 平成25年4月1日在学者 25 名（平成25年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 24 名（平成26年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業選択のミスマッチを防ぐため、学生募集活動において十分な説明を行う。 ・ 定期的な個別面談の実施 ・ 学生相談室の活用 		
ホームページ	URL: http://college.tbgu.ac.jp/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

第一に東北文化学園専門学校の教育理念は「本校は、常に時代の趨勢に即応し、実践力になり得る技術の修得と知識の涵養を図り、豊かな人間性を備え、社会に奉仕できる人材を育成することを目的とする。」となっている。これを踏まえて、若手技術者の育成に研鑽を惜しまない企業と連携を組む。

第二に建築の業界で新技術が導入された場合は、積極的に研修のなかに取り入れるものとする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

名 前	所 属
熊谷 猛	東北文化学園専門学校 教頭
畠山 公一	東北文化学園専門学校 教務課課長
工藤 剛実	東北文化学園専門学校 教務課担当科長
山田 春文	東北文化学園専門学校 事務課課長代理
佐々木 賢志	東北文化学園専門学校 建築科科长
増田 学身	東北文化学園専門学校 インテリア科科长
渋谷 孝志	一般社団法人日本建設機械レンタル協会宮城支部
西塚 英毅	株式会社深松組 建築部建築部長
宮崎 俊彦	トキワ産業株式会社 仙台営業所長

(開催日時)

第1回 平成26年9月11日 15:30～16:30

第2回 平成26年10月2日 15:30～16:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業との連携は、以下を基本方針とする。

- ① これからの建築業界を担うスペシャリストの育成を目指す。
- ② 実践的な実習・演習を展開する内容に特化する。
- ③ 社会人としてのマナーや礼儀、コミュニケーションを重視する。
- ④ 自らが考えて行動でき、目的意識や問題意識を持てる人材を育成する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
企業・施設等の実習	施工、設計等の仕事の流れを理解する。 実際に建築関連の事業所で実習を行い、実務の知識を身につける。	株式会社本間総合計画 株式会社T-plan

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校において実践する教育活動において、その教育水準の維持向上を図るべく教員の資質向上を目的に「教員の研修に関する規程」に基づき、計画的かつ組織的に研修を実施又は受講させる。研修には各専攻分野に関する知識・技術・技能等の修得・向上を目的とした「教員研修」と、授業及び指導力の向上を目的とした「養成研修」を設け、その研修によって付与された知識・技術・技能等を活かし、本校における教育の発展に貢献するよう努めるものとする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

名 前	所 属
野田 幹雄	東北文化学園専門学校 校長
千田 孝彦	東北文化学園専門学校 副校長
相澤 康弘	東北文化学園専門学校 教頭
熊谷 猛	東北文化学園専門学校 教頭
畠山 公一	東北文化学園専門学校 教務課課長
工藤 剛実	東北文化学園専門学校 教務課担当科長
渡辺 英隆	東北文化学園専門学校 学生課課長 (社会福祉科科长兼務)
増田 学身	東北文化学園専門学校 企画広報課課長 (インテリア科科长兼務)
小島 郁子	東北文化学園専門学校 キャリア対策課課長 (医療情報管理科科长兼務)
千田 利朗	東北文化学園専門学校 事務局次長
渋谷 孝志	一般社団法人日本建設機械レンタル協会宮城支部
海老主 勝義	NPO法人福祉住環境ネットワークみやぎ
中里 仁	特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター
山形 和正	公益社団法人宮城県眼科医会 会長
立石 浩一	東北文化学園専門学校同窓会 会長

(学校関係者評価結果の公表方法)

ホームページにおいて公開する。

URL: <http://college.tbgu.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページにおいて公開する。

URL: <http://college.tbgu.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程建築科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			国語	国語の基礎力・一般的知識を理解し文章表現力を習得する。小論文作成力を向上させさまざまな文章に触れて読解力の向上を図り豊かな人間性を身につける。	1前	30	2	○		
○			CAD入門	コンピュータを用いて建築図面の作図を行う際に必要となる、コンピュータの基本操作とCADの操作を習得する。さらに木造住宅の製図の演習を行い製図通則も学ぶ。	1前	60	2		○	
○			CAD設計I	CADにおけるプレゼンテーション手法を学ぶ。図面への着色、画像の取り込みなどの応用操作を習得する。	1後	60	2		○	
○			CAD設計II	建築図面の基本の平面図、立面図、断面図をより早く、より正確に図面化するという行為を念頭に応用操作を習得する。	2前	60	2		○	
○			3次元CAD	将来、建築設計事務所やパースのプロまたは幅広いデザイナーとして活躍を志すために、必要なプロの応用技術を主に3次元ソフトの演習を通して学ぶ。	2後	45	1.5		○	
○			環境工学I	人間が快適かつ健康的に生活するには、その土地の気候に合わせた建築物が必要となる。日本における建築物にはどのような工夫が必要になるのか、自然環境(室内気候・戸外気候・伝熱・日照・採光等)を通して考察する。	1前	30	2	○		
○			環境工学II	環境工学Iで学んだ内容を発展させ、快適で健康的な建築空間の計画について更に学習を進める。室内環境(照明・音響・換気と通風・色彩)が人体に及ぼす影響や調和について考察する。	1後	30	2	○		
○			建築ビジネス	ビジネスアピールから始まり、売り込み技術、戦略、戦術を学び、営業に対する理解を深める。	2後	30	2	○		
○			建築数学	建築の分野で仕事をする建設技術者に必要な数学的基礎を習得することを目的とする。	1後	30	2	○		

○		建築計画Ⅰ	最も身近な建築物である住宅を通し、計画する上で必要な基本的知識を学習する。歴史・風土からみる日本の住まいの特徴、戸建て住宅ならびに集合住宅に関する基礎知識、今後求められる住まいづくりについて学ぶ。	1前	30	2	○		
○		建築計画Ⅱ	公共建築物（学校・美術館等）及び商業建築物（店舗・事務所ビル等）について使用方法を検証し、基本的知識を学習する。また都市の構造について基本事項を学習し、利便性と環境面に配慮した計画を考察する。	1後	30	2	○		
○		建築計画Ⅲ	立方体の構成による立体の組み合わせの検証を通して立体認識力を向上させる。スペースフレーム構造の計画を通して力と構造形態の関係を学ぶ。移動可能な住居の計画を通して仮設建築の可能性を考察する。店舗建築を分析し建築と人間の行動心理との関係を学ぶ。震災後の都市の問題を検証し仮設生活のあり方について学ぶ。	2前	30	2	○		
○		建築計画Ⅳ	二級建築士設計製図試験の課題テーマの整理と出題分析、各部の計画、屋外施設の計画、構造計画等の留意点の学習を通して、問題文のポイントを的確に読み取る読解力と設計条件にしたがって建物を計画する設計力を身につける。	2後	30	2	○		
○		建築構造Ⅰ	建築物の施工順序に従い建築の構造を学習する。建築構造Ⅰは在来軸組、2×4構法、大断面集成材等の木質構造と内部外部仕上げ、開口部の構造について学ぶ。	1前	30	2	○		
○		建築構造Ⅱ	建築構造Ⅱは鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造、補強コンクリートブロック構造、プレストレストコンクリート構造の基本構造について学ぶ。	1後	30	2	○		
○		建築材料Ⅰ	建築物に使用される材料はセメント・コンクリート・鉄・その他の金属、木材が構造体の主流である。それぞれの材料には固有の特徴があり、その一般的な諸性質を学び、また理解することによって具体的な建物への応用を学習する。	1前	30	2	○		
○		建築材料Ⅱ	建築物に使用される仕上げ材料は、ガラス、石、プラスチック、粘土製品等幅広く多岐にわたっている。それぞれの材料には固有の特徴があり、その一般的な諸性質を学び、また理解することによって具体的な建物への応用を学習する。	1後	30	2	○		

○		建築史 I	西洋建築史の主な様式（ギリシャ、ローマ、ロマネスク、ビザンチン、ゴシック、ルネサンス、バロック、ロココ）の構造的長と意匠について学ぶ。更に各様式を支えた時代背景や美術について触れ、デザイン上の発想を学習していく。	1 前	30	2	○		
○		建築史 II	日本建築史上の著名な寺社建築を中心に木造木組みの構造的長を学ぶ。更に寝殿造、書院造、数寄屋造、町屋、田舎間などの返還をたどり、生活と設えの関係について考察を加える。また、日本の近代建築史を軸に産業革命以降の欧米の建築を紹介しながら、現代建築に至るまでの建築学の推移を学習していく。	1 後	30	2	○		
○		建築積算 I	ほぼ全ての建物は一品生産である。従って建物の価格は一棟ずつ使用される材料と労務費等から計算しなければならない。建築積算では、材料と労務費の数量を拾い出す基本的な考え方から実例を用いての実務的なものに至るまでを、分かり易く解説すると共に演習問題を多く経験することによって、社会に通用する力をつけることを目的とする。	2 前	30	2	○		
○		建築積算 II		2 後	30	2	○		
○		建築施工 I	建築施工は、設計図書に示された建築物を決められた期間内に決められた工費をもって、現場技術者や様々な職種の技能者の協力によって技術的に完成される一連の工事活動である。ここでは、着工から完成に至るまでの工事の流れ、基礎工事、鉄筋コンクリート工事の施工法を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○		建築施工 II	建築施工は、躯体工事と仕上げ工事に分かれており、ここでは鉄骨工事と仕上げ工事の工法を学ぶ。	2 後	30	2	○		
○		建築設備	ビルのインテリジェント化、住宅の近代化に伴い建築設備の重要性は増加の一途を辿っている。実際に建築に対するクレームや老朽化は設備関連が最も多く、ビルの用途に応じた将来性を予測した設備計画が要求される。ここでは、給排水設備、空調設備、電気設備等の基本的な技術について学び建築技術者としての基礎知識を習得する。	2 後	30	2	○		
○		建築法規 I	法規系科目の基礎となることから、法制の概要（法規の体系・法規用語・建築基準法の目的と構成）を学ぶ。建築基準法の用語の定義・建築手続き等の総則、一般構造・設備規定について学習し、建築関連法令集の読み方、引き方を習得する。	1 後	30	2	○		

○		建築法規Ⅱ	建築法規Ⅰに引き続き建築基準法の内容を進め、構造強度規定、防火規定、避難規定、及び都市計画区域等にのみ適用される規定（用途地域・容積率・建蔽率・高さ制限等）について学習する。また建築協定、緩和規定、準用規定等について学び、建築基準法の理解を深める。	2 前	60	4	○		
○		建築法規Ⅲ	建築基準法以外の関連法令（高齢者、身体障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律・建築物の耐震改修の促進に関する法律・建築士法・建設業法・都市計画法・住宅の品質確保の促進等に関する法律等）について学習する。また建築基準法の復習を通し、教科の総まとめとする。	2 後	30	2	○		
○		構造計画	鉄筋コンクリート造・ラーメン構造建築物が各種の荷重に対して十分に安全であるように計画するため「荷重計算」を行い、「大梁」「柱」「小梁」「スラブ」の『主筋』と『せん断補強筋』の算定方法を学ぶ。	2 後	30	2	○		
○		構造力学Ⅰ	積載物、地震、風、雪などの力（外力）が、建築各部におよぼす力を知るための構造力学の基礎編。釣合条件式【 $\sum X=0$ 、 $\sum Y=0$ 、 $\sum M=0$ 】を利用し静定構造の「片持梁」「単純梁」「単純梁系ラーメン」「片持梁系ラーメン」「3ピンラーメン」「張出し梁」「ゲルバー梁」について、その反力と応力の解法を学ぶ。	1 後	60	4	○		
○		構造力学Ⅱ	構造力学Ⅰに続き静定構造物の「トラス」の反力と応力に関する解法を学ぶと共に、部材の性質を断面の諸係数「断面1次モーメント」「断面2次モーメント」「断面係数」「断面2次半径」と、応力に関する事項「応力度とひずみ度」「ヤング係数」「せん断応力度」「引張応力度」「曲げ応力度」「座屈」等を学ぶ。また、モールの定理を使い、不静定梁に生じる力を学ぶとともに、不静定構造物の鉛直荷重時応力と水平荷重時応力の解析法を学ぶ。	2 前	30	2	○		
○		設計製図Ⅰ	木造2階建て住宅に必要な基本図面一式を段階的に学び、正しい製図の手順と技術を習得する。製図課題の図面種類に合わせて、関連する計画・構造・工法等を学習し、図面表現との関係や図面の役割を理解する。各図面の製図にあたって、製図の手順、図面に関連した住宅の仕組みを教科書から学習する。毎週の製図練習を経て、木造2階建て住宅の基本図面一式を所定の体裁により提出する。基礎製図の習得度の確認試験ならびに学期末に知識試験と製図試験を実施する。	1 前	120	4	○		

○		図学	建築・インテリアパースの基礎課程として、空間構成や立体構成の感覚を見に付けるため、遠近法基礎と表現技法の基礎を学ぶ。	1 後	30	1		○	
○		設計製図Ⅱ A	住宅設計のプロセスや手法、住宅の基本的な形態と構造、敷地環境と建築の関係等を学び、住宅設計に関する総合的な知識と技術、ならびに図面や模型による表現技術を習得する。小家族向けの一般住宅の設計により、住宅の空間構成、構造、形態を学習する。週末小住宅の設計により、空間のスケール感、建築的発想とその具現化、模型による思考、敷地環境による建築のあり方について学習する。成果を各階平面図、立面図、断面図、面積表、模型により提出する。	1 後	60	2		○	
○		設計製図Ⅱ B	工芸作家の工房兼住宅の設計を通して、敷地環境を活かした新しい住宅の形態を提案する。社会構造の変革やIT技術の進展による、仕事のあり方と生活様式の間接関係を学ぶ。成果を各階平面図、立面図、断面図、面積表、模型により提出する。	1 後	60	2		○	
○		設計製図Ⅲ A	鉄筋コンクリート造、鉄骨造の建築物の図面を教材とし、基本的な製図表現法を学ぶと共に、構造図との照らし合わせを行いながらコピーすることで、図面の意味を知り、更に建築物の構造を理解することを目的とする。	2 前	60	2		○	
○		設計製図Ⅲ B	二級建築士設計製図試験の過去問題をもとにした作図練習を通して、製図試験に対応した適切な製図表現と要求図面を所定の時間内に完成できる製図力を身につける。	2 後	60	2		○	
○		設計製図Ⅳ A	指導教員が設定するテーマによって共通設計課題に取り組み、建築設計のプロセスを学習する。	2 前	60	2		○	
○		設計製図Ⅳ B	各自設定する自由課題の卒業制作に取り組む。	2 後	60	2		○	
○		総合設計	与えられた条件を勘案し、建築設計能力を高める。	2 前	30	2		○	
○		表現技術演習	スタディ模型やプレゼン模型の制作に必要な模型製作の基本セオリー、模型材料の基礎知識、加工道具の基礎知識、材料の加工方法を習得する。スケッチ、ペーパークラフト、インテリア模型、住宅外観模型によるステップアップ式の課題と実践。	1 前	30	1		○	

○			CG入門	画像編集にアプリケーションを使用し、写真及び画像の編集、修正、合成を習得させる。	1 前	30	1		○	
○			プレゼンテーション 演習Ⅰ	各自が設定する、既存の建物について調査しパワーポイント、プレゼンテーションボードの作成を行う。	2 前	30	1		○	
○			プレゼンテーション 演習Ⅱ	設計製図ⅣBに関連させ、プレゼンテーションボードの作成を行う。	2 後	30	1		○	
○			人間工学	人体の寸法（尺貫法とメートル、人体寸法）・感覚（手と足）・行動（歩行、階段）・他（人体寸法と家具の関係、椅子、寝具、インテリア、他）を理解し、屋内空間の構成に生かせる知識を習得する。	1 前	30	2		○	
○			企業・施設等 の実習	施工、設計等の仕事の流れを理解する。実際に建築関連の事業所で実習を行い、実務の知識を身につける。	1 後	60	2			○
		○	資格対策講座（2級施工）	2級建築施工管理技術検定試験の対策授業となり、本試験に合格した場合に単位を認定する。なお、検定試験日直前に「直前集中講座」を開設する。	2 後	30	2		○	
		○	資格対策講座（福祉住環境）	福祉住環境コーディネーター対策授業となり、資格試験に合格した場合、単位として認定する。	2 後	30	2		○	
		○	資格対策講座（CAD検定）	CAD利用技術者試験対策授業となり、資格試験に合格した場合に単位を認定する。	2 後	30	2		○	
		○	建築士講座	二級建築士受験を備え、学科の試験対策の基礎講座を開講する。	2 後	30	2		○	
○			生活・就職指導	—	1 2 通	60	0		○	
合計				50 科目	1,995	単位時間（98.5単位）				